

伊賀区域の令和元年度具体的対応方針(案)

とりまとめ総括

- ・医療需要のピークを勘案した将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との比較では、病床総数は84床の過剰であるが、誤差の範囲と考え合意とする。
- ・定量的基準導入後の各医療機能の充足状況は、224床過剰となる急性期機能を除き、各医療機能で不足か過剰であっても誤差の範囲であるため、合意とする。
- ・合意としない急性期病床については、毎年度、協議を繰り返していく中で合意を図っていくこととする。

2019年7月1日時点の医療機能ごとの病床数						
医療機関名	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・無回答等	計
岡波総合病院		249	50	36		335
上野総合市民病院		241	40			281
名張市立病院		200				200
寺田病院		55		80		135
森川病院		52				52
医療法人中産婦人科 緑ヶ丘クリニック		19				19
医療法人武田産婦人科		14				14
医療法人藤本産婦人科		5				5
にしうら眼科		2				2
医療法人卓山医院		3				3
浅野整形外科内科					19	19
医療法人佐那具医院						0
計	0	840	90	116	19	1,065

2025年に向けた役割・医療機能ごとの病床数							
担うべき医療機関としての役割	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
救急の24時間365日体制に向けた取組を強化し、伊賀地域における急性期医療全般を担うとともに、急性期疾患受入増加に伴いポストアキュートの強化の観点から、回復期機能の充実にも取り組む。 ☑救急 ☑小児 □周産期 □災害	36	(201)	48	50		335	
伊賀地域における基幹病院の1つとして、医療機能(急性期機能、回復期機能、慢性期機能)のバランスがとれた地域の中核病院をめざすとともに、がん診療連携推進病院、在宅療養後方支援病院としての役割をはたす。 ☑救急 □小児 □周産期 ☑災害		(116)	165			281	
地域の中核病院として、急性期医療や高度医療を主として提供し、急激に進行する高齢化に対応するため回復期機能も担いながら、名張市の地域包括ケアシステムの一翼を担う。 ☑救急 ☑小児 □周産期 ☑災害	54	(93)	53			200	
急性期入院機能、慢性期の療養病床機能を維持しつつ、周辺の医療機関、介護事業所等の受け皿としての役割を担う。		(55)			40	95	40
周産期医療における一次及び二次医療のほか、特殊生殖医療、婦人科手術を行う急性期医療機関としての役割を担う。		(52)				52	
産科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			19			19	
産婦人科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			14			14	
産婦人科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			5			5	
眼科を標榜し、専門医療を担って病院の役割を補完する機能を担う。			2			2	
婦人科、内科、小児科を標榜し、①専門医療を担って病院の役割を補完する機能、②緊急時に対応する機能を担う。			3			3	
整形外科、内科、消化器内科(胃腸内科)を標榜し、①病院からの早期退院患者の在宅・介護施設への受け渡し機能、②緊急時に対応する機能、③在宅医療の拠点としての機能、④終末期医療を担う機能を担う。			19			19	
(病床廃止)							
計	90	517	328	50	40	1,025	40

(計)

2025年の病床数の必要量	77	284	329	219	909
将来の病床の必要量(医療需要のピークを勘案)	78	293	339	231	941
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	12	224	39	-191	84
協議を継続することとした病床数	0	517	0	0	517

参考:平成30年度

	医療機能ごとの病床数						介護保険施設等に移行
	高度急性期	急性期	地域急性期	回復期	慢性期	計	
2025年に向けた医療機能ごとの病床数	51	640	244	50	40	1,025	40
将来の病床数の必要量と2025年に向けた医療機能ごとの病床数との差	-27	347	-45	-191	84		